

フロンティア

あべ晋三後援会会報誌

FRONTIER



15号



この会報誌は、再生紙を使用しています。／この印刷物は、自然環境に優しい大豆油インキを使用しております。



ご挨拶

二〇〇七年九月十二日、私は総理の職を辞することを表明いたしました。理由については、辞任後の病院での記者会見でも詳しくお話をいたしました。当時の私の体調では、これ以上総理の座にあって、国政という大きな責任を果たして行くことは難しいと判断せざるを得なかったからです。特に、国会ではテロとの戦いにおいて、日本が国際貢献をしているインド洋上の給油活動を継続するためのテロ特措法の延長という大変重要な課題がある中で、所信表明をした後という、確かにタイミングは悪かったのですが、私としては局面の転換も考えた上で、断腸の思いで、ぎりぎりの判断を致しました。無論、所信表明で述べました政策に全力で取り組みたいと思っていました。が、体調の悪化、体力の限界により、この状態で、全身全霊で国政に打ち込むことが出来るだろうかと自問自答した結果、もし入退院を繰り返すようでは国政に影響を及ぼし、国民にさらに迷惑をかける結果を招くと判断し、身を引く決断をいたしました。突然の辞任により国民の皆様方、そして温かく応援して下さいる地元の皆様方には本当にご迷惑とご心配をおかけいたしましたことを、衷心よりお詫び申し上げます。

一昨年の総裁選と、そして総理就任におきましては、地元の皆様方には本当に力強いご支援をいただきましたし、ご期待もいただきました。また逆風が吹いた昨年の参議院選挙におきましても、山口県においては自民党、また林候補に對して、大変力強いご支援をいただきましたことを、重ねて御礼申し上げます。

総理在任期間は約一年間ではございましたが、その間、一度も総理として地元の皆様へお礼のご挨拶に帰郷することが出来なかったことは、大変心苦しく残念な思いでございました。にもかかわらず、一貫して私を支持していただいたことに對し、本当に感謝の気持ちでいっぱいでございます。

勿論「美しい国づくり」は道半ばの状態ですから、しっかりと体力を養い、充電し、その責任を果たして行きたいと考えておりました。しかしながら、この一年間で美しい国づくりへの礎は創り上げたのではないかと自負をしております。教育基本法の改正、防衛庁の省への格上げ、公務員制度の改革、地方分権の推進、憲法改正のための国民投票法の成立など、困難な課題に取り組むことが出来、皆様のご協力により成就出来ましたことは、日本国のために大きな収穫であったかと考えております。中でも私は教育関連3法案の成立には力を入れてまいりました。教育の再生については、すぐに効果が表れるわけではございませんが、教育はまさに国家百年

安倍晋三プロフィール

1954年(昭和29年)9月21日

安倍晋太郎・洋子夫妻の二男として生まれる

1977年(昭和52年)3月 成蹊大学法学部政治学科卒業

1979年(昭和54年)4月 株式会社神戸製鋼所入社(1982年11月退社)

1982年(昭和57年)11月 外務大臣秘書官

1993年(平成5年)7月 第40回衆院選に山口1区から初当選

1996年(平成8年)10月 第41回衆院選に山口4区から2度目の当選

11月 自由民主党青年局長に就任

1999年(平成11年)10月 自由民主党社会部会部会長に就任

2000年(平成12年)6月 第42回衆院選に3度目の当選

7月 第2次森内閣の官房副長官に就任

2001年(平成13年)1月 第2次森改造内閣の官房副長官に就任

4月 小泉内閣の官房副長官に就任

2002年(平成14年)10月 小泉改造内閣の官房副長官に就任

2003年(平成15年)9月 自由民主党幹事長に就任

11月 第43回衆院選に4度目の当選

おりますが、地域の良さを生かした活性化策を進めて行くべく、私も山口県出身の議員の一人として全力を挙げて取り組んで参ります。

総理在任中の一年間については、辞任も含めて反省すべきは反省し、初心に帰り、生涯を「闘う政治家」として再び歩んで行きたいと考えております。今後とも皆様の変わらぬご支援を宜しくお願い申し上げます。

安倍晋三



2004年(平成16年)9月 自由民主党幹事長代理に就任

自由民主党改革推進本部長に就任

2005年(平成17年)9月 第44回衆院選に5度目の当選

10月 第3次小泉改造内閣の官房長官に就任

2006年(平成18年)9月 第21代自由民主党総裁に就任

第90代内閣総理大臣に就任

2007年(平成19年)9月 内閣総理大臣を退任

ある社会をつくります。



地域経済

**地域を活性化するために、
持続的な成長を
支援いたします。**

特区において講じられた規制の特例措置について、評価の結果に応じて全国展開をはかり、地域の自主・自立的な取り組みを支援いたします。さらに地域中小企業応援ファンドを積極的に創設し、企

社会問題

**努力する人が報われる
社会をつくります。**

「再チャレンジ支援総合プラン」の推進により、挑戦する意欲を持つ人が、就職や学習に積極的にチャレンジ出来るようにいたします。就職氷河期にフリーターとなった若者の正社員化には整備等の見直しを含め、企業とのマッチングを進めます。また、定年を迎えて再就職を希望する団塊世代をはじめとする、シニア人材が有する技術やノウハウを、中小企業や地域で活用されるよう、仕事を通じてその意欲と能力を活かせるようにいたします。障害者の方々の雇用に関しては「障害者就業・生活支援センター」をすべての障害保健福祉圏域に設置し、共生社会を形成するための支援ネットワークを構築いたします。



第166回国会・施政方針演説



活力に満ち溢れ、豊かでゆとり

教育問題

**家族、地域、国、
そして命を大切にする
豊かな心を育てる教育を
行います。**

教育基本法が59年ぶりに改正されました。戦後教育は、機会均等という理念のもとで国民の教育水準を向上させました。しかし、自立の精神や公共の精神、自分が生まれ育った地域や伝統に対する愛情といった、日本本来の価値観を置き去りにしたように思えてなりません。今こそ、家庭が、地域が、学校が、そして一人一人が、自ら何が出来るかを考え、自覚することが教育再生の第一歩であると考えます。こうしたことを踏まえて、社会ぐるみの教育改革を前提に、21世紀にふさわしい豊かな心を育てる教育の理念や原則を再構築し、これを礎に教育改革を進めるとというのが新しい基本法の骨子となります。

業の活力を引き出し、人材の確保や新たなブランド商品の開発の支援を通じて、産業の振興に取り組みでまいります。また高齢者をはじめ、多くの方々が安心して暮らせる街づくりに対応した、商店街の取り組みに対して支援をしてまいります。最後に、改革の痛みを感じていらつしやる地方の方々に、改革の果実を実感へと繋げる努力をし、これに応えていくことをお約束いたします。



教育再生会議第1回会合より



実現に邁進いたします。



自衛隊活動

世界平和維持のため、
自衛隊の体制整備を
進めます。

テロリストは国境を越えて海上に逃れ、世界中を移動して資金源となる麻薬の密輸などをしていきます。各国の艦船は、インド洋においてこれらを監視し、取締りを行っております。海上自衛隊はこうし

憲法改正

日本の将来は、
われわれ自身の手
に委ねられています。

憲法は国のかたち、理想を物語るものです。「国際社会において、名誉ある地位を占めたい」憲法前文にある理想は、日本が国際社会へ積極的に貢献する姿勢へと繋がりました。国民主権、基本的人権の尊重、平和主義という憲法の基本的な原則は今後も変わることはありません。しかし一方で、21世紀にふさわしい日本の役割とは何か、守るべき価値とは何か、といった議論をすべき時が来ていることも確かです。こうした、国家ビジョンにも関わる憲法議論を避けて通ることは不誠実と考えます。憲法改正のための国民投票の成立を契機として、この国の将来を皆さまと共に静かに、広く、深く考え、国民的な議論が行われることを期待しています。



広島・長崎
平和記念式典にて



能登半島地震 現地視察



信頼と誇りの持てる国づくりの

拉致問題

「主張する外交」で、
この問題を解決すべく
全力を尽くします。

拉致は、未曾有の国家的犯罪行為であり、わが国の主権と国民の生命に対する重大な侵害です。私はこれを断固として許すわけにはいきません。国連安保理の決議には、日本の強い主張により、その前文に「北朝鮮が国際社会の人道上の懸念に対応することが重要」という表現で、拉致問題についても盛り込むことが出来ました。国際社会が拉致を重大な問題として位置づけたことは、大変意義深いものです。国民の命、生活、財産を守ることは政治家として当然の責務です。拉致被害者の皆様は、北朝鮮で生きておられます。すべての拉致被害者を取り戻すべく全力を尽くしてまいります。

た活動を支援するため、平成13年から、各国の艦船に洋上で燃料を補給しています。こうした自衛隊の活動は、海外ではわが国の顔として、世界の平和と安定に大きく寄与しております。また、自衛隊はわが国においては危機管理の要として、自然災害時には救助・復旧作業の担い手として、なくてはならない存在です。国際平和協力活動を自衛隊の本務とするための体制整備を進めることは大切であり、これを推進してまいります。

拉致被害者家族の方々と



帰国拉致被害者の方々と面談



G8ハイリゲンダム・サミット



《北大西洋理事会》
日本の総理大臣として
初めて出席・演説

世界の波動を掴む政治家、安倍晋三

中西輝政

新しい年である平成二十年(二〇〇八年)という年は、日本の内外とも大きな変化が予想される年だと言われている。世界はまさに大きな変動の予兆を随所に示している。

昨年(二〇〇七年)夏、アメリカで始まったサブプライム・ローン問題がきっかけとなって、世界の金融情勢に予想外の深刻な変動をもたらしている。「金融のグローバル化」「ビッグ・バン」を掛け声に、世界の金融市場の一体化が進んだこと、そして「リスクの分散」と「投資の促進」を目ざして、住宅ローンの債権までも証券化して世界中に売りさばく。この流れが背景にあるため、サブプライム問題はまさに「グローバルな危機」へとつながった。それに加えて、アメリカ経済の減速がささやかれているため、日本経済の先行きにも思いがけない影が差し始めている。二〇〇八年の日本の課題として、経済運営のカジ取りはおそらく最大のテーマとなるのではない。

二つめは、圧倒的な人気を一般の選挙でも見せつけたブーチンのロシアが、これから巻き起こす世界情勢の「渦巻」であろう。石油の高騰を背景に急速

に国力と発言力を強めている昨今のロシアだが、中東とくにイランやイラクを始めとする国際情勢の焦点に今後、ロシアの動きがカギを握ることも予想される。ヨーロッパでも旧ユーゴのコソボ地方をめぐる紛争に再び火がつく可能性が強まっているが、カギを握るのはやはりロシアだ。二〇〇八年五月にブーチンは一旦、大統領の座を降りはあるが、引き続き実権を握りつづけることに変わりはない。この「ロシアの台頭」が、東アジアの情勢にどんな影響を及ぼすようになるのか、これが日本にとって最大の関心となるだろう。

東アジアと云えば、当然、二〇〇八年北京オリンピック後の中国の行方が最も気になるだろう。今のところ、オリンピックが終れば急速に流動化が始まる、とまでは思えないが、金融を始めとする中国経済の動きに変調の徴しが随所に現われるだろうことは間違いない。この経済の変調に中国がどう対処するかが問われるのであり、やはり北京の中枢の動きがカギを握る。昨年秋季に開かれた第十七回共産党大会での人事を見る限り、胡錦濤指導部の完全な専権体制が出

中西 輝政 なかにし てるまさ

略 歴

1947年大阪府生まれ。1971年京都大学法学部、1973年同大学院法学研究科修士課程(国際政治学専攻)修了。1977年までケンブリッジ大学歴史学部大学院にて学び、歴史学修士号取得。京都大学法学部助手、三重大学人文学部助教授、米国スタンフォード大学客員研究員、静岡県立大学国際関係学部教授を経て、1995年より現職、京都大学大学院人間・環境学研究科教授。2007年、内閣官房「美しい国づくり」プロジェクト・企画会議委員。

主な著書

「大英帝国衰亡史」(PHP研究所、1997年)
「なぜ国家は衰退するのか」(PHP新書、1998年)
「憲法改正」(中央公論新社、2000年)
「日本の『敵』」(文藝春秋、2001年)
「国民の文明史」(扶桑社、2003年)
「帝国としての中国」(東洋経済新報社、2004年)
「アメリカ外交の魂」(集英社、2005年)
「日本の『覚悟』」(文藝春秋、2005年)
「日本文明の興廃」(PHP研究所、2006年)
「日本人としてこれだけは知っておきたいこと」(PHP新書、2006年)ほか多数。

受賞歴

1989年 佐伯賞
1990年 石橋湛山賞
1997年 毎日出版文化賞、山本七平賞
2003年 正論大賞

来上ったとは到底、言えない。とすれば、今年の後半からの中国は、金融を中心とする経済の動向と共に、政治の動きにも一層、目が離せなくなる。中国のこうした動きが北朝鮮をめぐる情勢にどんな影響を与えるかも気になるところだ。

北の情勢となると、やはり今年大統領選挙の年を迎えるアメリカが最大のカギを握っていることは間違いない。そしてアメリカ大統領選挙に最も影響を及ぼすのは、つねに景気の行方だ。アメリカの政権交替の可能性、そ

してアメリカ経済の減速傾向にどう対処するか。これらが、おそらく総選挙を迎えるだろう二〇〇八年の日本の課題として、実は最も重要なテーマではないだろうか。

今年三月には台湾の総統選、そして先にも述べた様に十一月にはアメリカの大統領選が控えている。北京オリンピックが終われば、各国の選挙の結果と相まって日本の内外は、冷戦終焉以来の、あるいはさらに大きな激動の時代に入っていくことになる。今後日本を担う政党は、そしてそのリーダ



2007年9月13日
読売新聞
掲載記事より

1には、どんな政治家が求められるのか。やはりその政治家は「戦後のレジームからの脱却」を、今度こそ高々と掲げる政治家でなければならぬのではないか。

安倍氏は自らの辞任によって、日本の国益にかかわる政治目的を達成しつつある。テロ特措法の世論調査によれば辞任前の調査と後の調査で賛否が逆転し、「延長すべき」が多数とな

った。大きな国益を確保するため、体調不良の状況にあった安倍首相がとった最後の一幕であった。
二〇一二年ごろには、間違いなく日本の財政はやり繰りがつかなくなり、

日本を取り巻く国際情勢も大いに荒れているだろう。そのとき「シンゾウ・イズ・バック」となるかどうか、すべては今後の身の処し方にかかっているが、私は大いに期待したい。

苦渋の末、孤独な決断



丹羽宇一郎氏

伊藤忠商事会長。経済財政諮問会議議員、地方分権改革推進委員会委員長。68歳。

多くの人が「無責任だ」「投げ出すのか」と思ったに違いない。首相の資質を問う声もあるかもしれない。だが、経営者の私には安倍首相の心境がわかる。トップには、あらゆる批判を承知の上で、誰にも相談せず、「撤退の決断」をしなければならぬ時がある。首相は猛烈に悩んだ末、最も難しいこの決断をしたの

だろう。官房長官が首相の健康問題にふれたのを聞き、そうだったのかと思った。首相は常に「全身全霊を傾けて国政に打ち込む」と語ってきたが、体の不調を自覚して「全身全霊で打ち込めるだろうか」と自問したのだらう。自分の命のことなど考えなかったはずだ。むしろ、国会の論戦や国連総会などの日程

を控え、途中で休んだり入院したりすれば、それこそ国民のためにならない、身を引くのはいまだと考えたのだらう。体をかばいながらやろうとする人もいるだろうが、その選択は、首相の誠実さが許さなかったのだと思う。

安倍政治は小泉政権以来の改革の灯を高く掲げた点で高く評価されるべきだ。首相の思いは、持続的な経済成長と歳入・歳入の一体的改革、21世紀型の行財政システムの構築、国民の安心・安全を確保する社会保障制度の構築を入れた「骨太方針2009」に凝縮

されている。中国との関係回復や道路特定財源の一般財源化の道筋など、過去の政権ができなかったことにも着手した。首相は決断ができる腹のある人間だ。

だが、残念なことに足を引っ張る閣僚の不祥事が多く、社会保障の言語道断の実感がわかり、不祥事で信が薄れ、政治課題になってしまった。

今後、政策の停滞を懸念する声が出るかもしれないが、ここまで議論してきた政策を断絶してはならない。人と力と技術が地球規模で動く時代だ。世界の中の日本を考えなければならぬ時に、政治を国内政局だけで考えてはならない。そのために経済財政諮問会議で議論した「骨太方針」は、国民に対する約束だ。

これをほごにしてやり直すとしたら大きな損失だ。早く後継首相を決め、実行内閣を作る必要がある。

参院で与野党が逆転している。日本の民主主義にとって緊張感のある政治体制ができたと評価できる。ただし、民主主義を中心とした野党も、世界の中の日本を絶えず頭にいれ、国内政局よりグローバルな視点をせむもってほしい。社会保障制度などでは財源の裏付けをきちんと考えてほしい。その上で与野党が成熟した議論を展開してほしい。

新しい首相の条件は、成熟した民主主義の中で政治を行うこと、世界の中の日本を考えること、改革の灯を消さないこと、この三つだ。（聞き手・編集委員 青山彰久）

(13) 解説 13版

2007年(平成19年)9月13日(木)

に元気をいっぱいいただきました!

12/7
金

県庁前にて約500人の方々から
拍手でお出迎えをいただきました。

お出迎え、ありがとうございます。
県民の皆様から、
このように温かく迎えられること、
本当に嬉しく感激をいたしました。

体調は完全に元に戻り、
健康は回復いたしました。
県民の皆様にご心配頂きましたことに
心からお詫び申し上げます。

山口県庁内にて記者会見

安倍晋三前内閣総理大臣

安倍前総理を囲む会(ホテルニュータナカ)にて



1年3ヶ月ぶり、久しぶりのふるさと

国民のために、
また頑張つた!!

お疲れ様!!
お帰りを
お楽しみに!!

梅も咲いた!!

多くの皆様から
暖かいご支援を
いただきました。

シーモール
下関にて

シーモールホールに
約1300人の支持者が集まりました。

美しい国づくりの礎は出来ました。
地元の皆様、力強いご支援を支えに、
初めに還り、
志を成し遂げて参ります。

アツキー(昭恵夫人)
ありがとうございます!!

昭恵には、入院・療養中にも
本当によく看病して貰い、
そのお陰をもつて
健康は回復をいたしました。
しかし、
頭は上がらなく
なりました(笑)!!

溢れんばかりの人々……

一年三カ月ぶりです、
ご無沙汰をしております。
皆様お変わりなく、
お元気そうで何よりです。

総理在任中は、
長州八人目の総理大臣として誇りを持ち、
恥ずかしくない仕事をしようと
決心をして職務にあたりました。

からの激励に、胸が熱くなりました!

12/8
土

2006年8月以来の基参です。

種は蒔き、芽は出ました。たわわに実る様、全力を尽くして参ります。

墓前で支持者の皆様にご挨拶

油谷 地区集会



最後には後援会の方々と「ふるさと」を合唱しました



日置 地区集会

総理就任から今日まで、全力疾走して参りました。一貫してご支持いただきました皆様、心から厚く御礼申し上げます。



“わーっ、あべしんぞうだーっ!”
出口では子供達に囲まれました

12/9
日

豊北 地区集会



公務員制度改革は、民間との積極的な交流により、民間の活力、個人の能力を最大限に活かすものです。

豊田 地区集会



各地域の発展なしには日本の未来はありません。税制改革の中でも、地方の財政支援は今後の重要な課題の一つです。

豊浦 地区集会



あべ晋三 新春の集い

平成20年



1/27

(日)

下関地区

海峡メッセ下関 1F 展示見本市会場(11時～)

1/26

(土)

長門地区

白木屋グランドホテル(15時～)

豊浦地区

川棚グランドホテル お多福(11時～)

多くのみなさま



三隅

地区集会

長門

地区集会



格差社会の是正に力点を置き、山口県が今より魅力ある県になる様、成長とさらなる活性化を実現させて参ります。



帰郷に際して
温かくお出迎えいただいた
支持者の皆様、本当に
ありがとうございました。



安倍晋三先生を囲む会

菊川

地区集会

ふるさとに帰り、原点に立ち戻ったことを再認識いたしました。初心に帰り、一議員として地域のため、国のために尽くして参ります。



遅くまでありがとうございました